



今回の図書館だよりは「3年生&担任の先生方のおすすめ本紹介」です！

乙武 洋匡『五体不満足』

3年1組 担任 : 永岡 真一 先生

前にも紹介したかもしれませんが、「五体不満足」という本をみなさんに紹介したいと思います。乙武さんは生まれつき両手両足がありません。しかし、両親をはじめ、周りの人の協力によって、障害者学校のようなところには通わず、いわゆる「健常者」が通う小中高大へ通い続けました。しかし、本人をはじめ、周りの子ども「障害者」として接していたわけではありません。「障害者」の友達ではなく、たまたま友達が「障害者」だったみたいな感覚に近いんだと思いました。それは乙武さんの生き方や周りへの接し方がそう思わせるのかなと本を読んで感じました。色々考えさせられる本です。よかったら読んでみてください。

アーシュラ ウィリアムズ／中川 千尋＝訳『魔女のこねこゴブリーノ』

3年2組 担任 : 石川 穂波 先生

「ぼくは、ふつうの台所ネコになりたいな。」これは、魔女猫一族に生まれた子猫のお話。黒猫のはずが前足は白く、魔法も苦手な彼は、幸せを探して旅に出ます。農家の家猫、船乗りの猫、キャットショーの猫…。行く先々で、魔女猫と知られる度に手のひらを返される。それでも、困っている人を放っておけずに魔法を使ってしまう正直で優しい子猫。さて、そんな彼の願いは叶ったのでしょうか？

このお話はファンタジーですが、「安心できる居場所はどこ？どうしたら認めてもらえるの？」…と葛藤する子猫の健気な姿が、何となく人に重ねて見えて印象深く、小学生の時から思い入れがあります。本の装丁も好きで、カバーを外すと実は綺麗な仕掛けがある所もお勧めです。

早見 和真『店長がバカすぎて』

3年3組 担任 : 椎名 正悟 先生

みなさんのアルバイト先にはこの本のタイトルのような人物はいますか？あるいは今後働いたとき、タイトルのように感じる人が現れるかもしれませんですね。そんなとき考えてみてください、「本当にそうなのか」と。

この本は、書店で働く主人公が、店長・お客さん・社長といった一癖も二癖もある人物に振り回され、その中で自分の人生について真剣に向き合っていく物語です。果たして本当に店長はバカなのか。最後に驚きの展開が待っています。

自分だけでなく相手（他人）との向き合い方について考えられる内容になっています。特にアルバイトをしている人は共感することが多いと思います。ぜひ読んでみてください。

村上 陽一郎『あらためて教養とは』

3年4組 担任 : 河野 遼 先生

「教養」という言葉を聞いて、どんなイメージをもつだろうか。新明解国語辞典（第七版）でその意味を引いてみると、「文化に関する、広い知識を身につけることによって養われる心の豊かさ・たしなみ」と記載されている。つまり、多くの人が想起するであろう「知識」という語は、教養の一部にすぎないのだ。

本書において村上氏は「教養の原点—それはモラルにあり。」と語り、その歴史と変遷から、教養の本質を綴っている。真たる教養人は慎みを重んじる。卒業を間近に控えた君たちにこそ、心に刻んでもらいたい。

太田 勝ほか『名探偵コナン推理ファイル恐竜の謎』

3年1組：師 龍翔

複数個シリーズ出版されている内の一つをご紹介します。あらすじとしては、少年探偵団たちが化石に興味を持ち化石探掘しようとしている最中おとずれた博物館にて事件が起こる話です。

ストーリー監修は最先端の学者によって構成されています。ですが内容は子供向けで、本編劣らずの推理があちこちに展開されています。この作品の見所は、現代に蘇って暴れ回るところです。この作品は片手間で読めるので、推理系が好きな方にはおすすめです。この本を一言であらわすと、ストーリー展開のスピード感がはやくてとても面白い作品です。

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』

3年2組 : 小倉 春人

この本は、コペル君こと「本田潤一」という15歳の少年が、学校生活を送るなかで経験したさまざまな出来事を通して、ものの見方や人間関係、社会の構造などについて観察し、考えを深めていくという内容です。

作中では、彼の父の遺志を受け継いだ編集者の叔父さんがコペル君を導き、読者は、物語の終盤でコペル君が手にすることになる「おじさんのノート」を一足先に読みながら、コペル君の成長を追いかけていきます。今、人間関係や自分の考えに悩んでいる人。そして今はそうでなくても、前にそうだった人に読んでほしい考えさせられる話が多くあります。是非読んでみてください。

寺地 はるな『大人は泣かないと思っていた』

3年3組 : 山崎 栞夢

この本は、いろんな大人たちの視点で描かれている日常の話で心がじんわり温まる連作短編集の話になっています。

主人公である時田翼 3 2 歳。九州の田舎町に大酒呑みで不機嫌な父と二人で暮らしており、ある朝、隣人の老婆が庭のゆずを盗む現場をおさえろと父から命じられ、小学校から同級生の鉄腕とゆず泥棒をつかまえるが、犯人は予想外の人物で…。

全7編集録されており、恋愛や結婚、家族の「あるべき形」に躓き、傷ついてきた大人たちがもう一度、自分の足で歩き出す姿を描いた本です。

大人の方はもちろん、大人は泣かないと思っている方にもおすすめの本となっています。気になった方は是非読んでみてください。

辻村 深月『かがみの孤城』

3年4組 : 関根 華京

この本は誰でも共感できるとても温かい物語です。

入学早々、クラスメイトから嫌がらせを受け不登校になってしまった安西こころは、ある日、自分の部屋の鏡が光っていることに気付く。恐る恐る鏡に触れた瞬間、こころは見知らぬお城に引き込まれてしまう。そこにはこころと似た境遇の6人の中学生と狼の仮面を付けた「オオカミさま」がいた。オオカミさま曰く、「願いの鍵」を見つけた者は何でも望みを叶えられるという。果たして、集められた6人は鍵を見つけられるのか、そしてなぜ、この7人が集められたのか、いたるところに伏線が張っており、ミステリーとしても楽しめます。

読む人を選ばない作品です。ぜひ、読んでみてください！！

図書館からのおねがい

- 原則静かにすごしてください。(大声は出さないように！)
- ものを食べたり、飲んだりしないようにしましょう。飲食物の持ち込みは禁止です。
- 本を無断で持ち出さないようにしましょう。
- 退出する際は、読んだ本やイスなどをきちんと元の位置にもどしましょう。
- 1 回に借りられる冊数は3冊まで。貸し出しは 14 日間になります。
- 本のリクエストを募集しています。どんどんリクエストしてみてください！

気になることや質問があったらいつでも図書館にきてくださいね！

